

東洋と西洋

天地間凡ゆる物に、陰と陽のある事は誰知らぬ者もない。そうして私は此陰陽を経緯に別けてみるが、陽は経であり、陰は緯である。この経緯を左に分類してみよう。

経——日、火、東洋、靈、男、仏教、赤、山、昼

緯——月、水、西洋、体、女、基督教、白、海、夜

以上は概略で、之を解説してみるが、右の如く凡ゆるものに経緯がある。例えば東洋は経であるから祖先崇拜であり、忠孝を貴び、子孫に美田を買い、厳然たる階級制度であるに反し、緯の西洋は夫婦愛が基調で隣人愛となり、終には人類愛にまで発展するということに、緯への無限の拡がりである。又東洋では男子の絶対権を認

め、女性に男子に追隨するものとされているが、西洋は女子の權利を認め、男女同權が當然とされている。

右の如く、今日迄は東洋は經の線を固持し、西洋は緯の線に満足していた。然し乍ら何れの日か此經緯の線が結んで十字の形にならなければならぬ。というのは東洋の精神文明と西洋の物質文明との結合である。この結ぶ事によって、世界人類は初めて理想の文化時代に入るのである。キリスト教の十字架はその暗示であり、仏教の卍も同様の意味であらう。

そうして經は靈で、緯は体であるから、之が結んで力の發生となる。チカラのチは血で、靈であり、血は人体を經に昇降しているが、カラは殻で体であり、靈の容れ物である。故に血である靈が脱出すれば、体は空となるからナキガラといい、肉体をカラダとい

ふ。又人（ヒト）とは言霊学上ヒは霊であり、トは止であるから、霊が止ってヒトとなり、人といふのである。人間が生きている間は立体であるのは、経である霊の物質化である血が通っているからで、死と共に横体になるのは霊が脱出して、緯である体のみになるからである。又人間立体の時は温かく、横臥すれば寒く、夜着を着なければならぬのは、霊界に於いては火素が経に昇降し、水素が緯に流れているからである。

茲で、十字形如来に就いて述べたい事がある。それは終戦前までの日本は封建制によってあまりに経となり、階級制が甚しかった結果、戦争の原因ともなり、人民大衆の苦悩の原因ともなっていた。そこで神様は日本人を民主主義といふ緯の力によって救うべくなされたのであるが、之を判り易くいえば、経の棒である日本へ、緯の

棒である米国式を採入れ給うた。即ち経と緯が結んで、是に十字形の文化が呱呱の声を挙げたのである。此事が判れば今度の敗戦は喜ぶべき事であって、実に有難い国になったのであるから、日本人もそのつもりで、将来を楽しみに、世界から仰がれるような立派な国にならなければならないと、私は思うのである。